



あじけん通信 vol.6

2008年 7月発行
発行所：TBC国際外語学院
企画・編集：水沼 正芳

毎日ジメジメ暑く、まさに梅雨真っ只中といった感じの陽気が続いていますね。

かと思えば、時折肌寒く感じる日があったりと、体調管理の難しい時期でもあります。

ここ、アジア研修センターでは、アジア各国から日本へやって来た研修生の皆さんが寄宿していますので、皆さんの体調にも、絶えず気を配る必要があります。

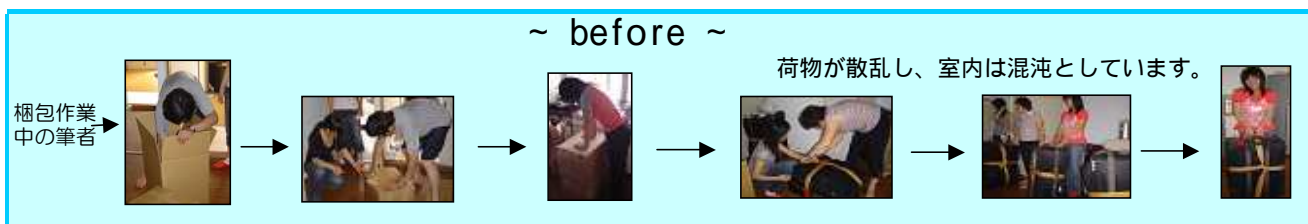
これから本格的な夏を迎えるにあたり、食品がいたみやすくなったり、衛生上の不安も出て参ります。研修生の皆さんは、作った料理をそのままの状態冷蔵庫に入れてしまうため、以前から入寮時にラップを配布させて頂いておりますが、使われたり使われなかったりしているのが現状のようです。そこで今月を『ラップ使用推進月間』と定め、職員全員で正しく使用する習慣を身につけてもらうよう、繰り返し呼びかけを行っていきます。

〈包もう・くるもう・巻いていこう!!〉 私たち職員のこの夏の合言葉です!

生活支援トピックス vol. (感激 ビフォー・アフター! 荷物の梱包と送付編)

私どもの施設で日本語の学習を終えた研修生の皆さんは、いよいよ本格的な研修に臨むべく、受け入れ企業に移動します。北は北海道の利尻島、南は四国・中国・九州地方と、全国各地へと羽ばたいていくのです。その際、およそ1ヶ月生活した部屋の荷物を整理し、荷物をまとめる事になる訳ですが、移動手段が電車やバス等の場合、今にもはちきれそうな荷物を抱えての移動は困難を極めます。そこで、ご依頼を受けた場合、移動当日は手荷物のみで済むよう、研修生の皆さんの荷造りの補助及び企業様への事前送付補助を行っているのです。

今や暮らしの中で無くてはならない宅配サービス。実は私たちがこれを利用するためには、ちょっとした苦労があるのです。今月はその舞台裏をご覧ください!



荷物を送付する際、運送会社が定める重量規格に沿った形で梱包しないと、日付指定をして送る事や、荷物を受け付けてもらう事ができません。ところが、大部分の研修生は馴染みが無いばかりに、箱に詰められるだけの荷物を詰め込もうとします。そこで、体重計を部屋に持ち込んで重量を計りながら、1つ1つ梱包の手助けをしていきます。私は、ドラえもんトラックでお馴染み、某引越センターでのアルバイト経験があり、当時チームリーダーも努めていました。当然荷物の多さには慣れているつもりなのですが、それでも女性の研修生の物量の多さには、毎回泣かされます。運動不足が気になる私も、皆さんのおかげでいい汗を流す事ができています。

この様に、毎回研修生の皆さんとの共同作業を経て、無事に荷物が送られていくのです。

~ after ~

戦いの跡をご覧ください!

梱包が終わると、次は搬出作業が待っています。荷物1個につき、25kg以下という、研修生の物量からすると厳しい規格をクリアしなければならないという点が、少々難しいのですが、そこは自らが培った梱包スキルを駆使してお手伝いします。仕事って、本当に無駄にならないですね!

